



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2019.9

No. 426

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



夏水田んぼのシギ・チドリ - 2 *

佐野 和宏 (越谷市)

● 『干潟のシギ・チドリ』はどこで～

“夏場は、バードウォッチングはお休み”、という方は多いでしょう。確かにみられる鳥は減ってきます。ところが繁殖を終えたシギ・チドリ達が関東地方を通過するのは、まさにこの夏場(9月を含む)。当会でも谷津干潟や三番瀬海浜公園で探鳥会が開催され、ダイゼンやミユビシギなどの、いわゆる『干潟のシギ・チドリ』たちを見ることができます。

● 『内陸性のシギ・チドリ』はどこで～

ではヒバリシギやウズラシギなどの『内陸性のシギ・チドリ』はどこで見られるのでしょうか。

これらは県内外の夏水田んぼで見ることができますが、観察ポイントとしては交通の便が悪いことに加え、水の状態が頻繁に変わってしまうという難点があります。折角苦労をして田んぼまでたどり着いても空振りだった、ということが多いのです。

そのようにならない為に、まず、お目当ての田んぼに通っている地元の“夏水田んぼ好き”の人を探ることからはじめてみてください。これらの方に直近の田んぼの情報をもらい、できれば実際に案内してもらおうというのが、最も確実な方法です。

さて実際に“夏水田んぼ好き”を探して情報を得るにしても、どこにどんな観察ポイントがあり、いつ行けばいいのか、くらいは知っておきたいところです。ここでは夏水田んぼを含めた、県内および近郊のシギ・チドリの観察ポイントを、時期を含めて紹介します。

・川越市 伊佐沼 (調整池)

観察期間：9月～翌年春まで

言わずと知れた県内一の観察ポイント。夏場は水が多いので観察は9月に水を抜いてか

ら。

多いのはダシギやアオアシシギ、セイタカシギなどですが、これらに混じって、思わぬ珍客が訪れることも。コチドリの越冬も、県外では珍しいようです。

駐車場やトイレは完備されていて初心者でも気軽に楽しめます。

・川越市 南古谷 (夏水田んぼ)



観察時期：7月下旬～9月中旬

最寄り駅の名前から一般的にこう呼ばれていますが、実際には駅からは南東方向に位置する水田地帯。

狭いエリアに10面以上の夏水田んぼがあり、県外からも多くのバーダーが訪れる、古くから知られたポイントです。

ムナグロやコチドリの大群が有名ですが、昨年はアカエリヒレアシシギなども見られました。

駐車スペースはなく路上駐車となりますが、一般車両の通行も多いので十分な注意が必要。

・春日部市 倉常 (夏水田んぼ)

観察時期：7月下旬～9月中旬

国道4号バイパス沿いの大きな麦畑に水が張られます。コチドリやクサシギなどが中心ですが、サギ類やカルガモなども多く見られます。

若干ですが駐車スペースもあるのでのんび



りと楽しむことができるポイントです。

・行田市 利根大堰周辺（夏水田んぼ）

観察時期：7月下旬～9月中旬

利根川の南側に広がる広大な水田地帯で、この中に毎年数面の夏水田んぼが出現します。ただ水の状態は頻繁に変わり、当たり外れが大きい為かバーダーはほとんどいません。それでも当たった場合には、多くの種が見られることから、マニア好みポイントとなっています。

駐車スペースが無い場所が多いので、農耕車には十分注意が必要となります。



・茨城県 稲敷市周辺（レンコン畑）

観察時期：9月下旬～翌年春まで

稲敷大橋周辺に広がるレンコン畑で、収穫が終わって程よく水の残った畑が観察のポイント。

幼鳥を中心とした“遅く渡ってくるグループ”や、そのまま越冬するハマシギやオオハシギなどがお目当てとなります。

蓮田周辺は道が狭いので農耕車や近隣の方の通行の邪魔にならないように、十分注意をする必要があります。

・栃木県 小山市（夏水田んぼ）

観察時期：7月下旬～9月中旬

渡良瀬遊水地から北東方向へ、思川駅近く



まで広がる水田地帯で、この中に点在する麦畑に水が入ります。多いとその数は50を超え、夏水田んぼの数の多さは飛びぬけています。一回りするには半日程度かかり、十分楽しめます。

地元のバーターも多く、基本的には車の中から観察をしていますので、このような場合はいきなり車外へ出てスコープを立てるのは控えた方がいいでしょう。

・群馬県 多々良沼（調整池）

観察期間：9月～翌年春まで

伊佐沼同様に、9月に水が抜けてからが観察期間。

オジロトウネンやツルシギなどが有名で、冬季にはシギ・チドリの越冬個体以外にもハクチョウやカモ達を楽しませられます。

● 記録はしっかりと～

この記事を書いているのは7月終盤。すでに県内からもクサシギやアオアシシギの情報が入り始めました。さて今年はどこでどんなシギ・チドリたちが見られるでしょう。

県内での観察記録は、2016年が17種、2017年は25種、2018年は19種と、少ないとは言えないものの、個体数の減少は誰もが感じるところです。

あの頃は夏にもシギ・チドリが見られたんだった、なんてことにならう、せめて記録はしっかりととっておきたいと思います。



*:「夏水田んぼのシギ・チドリ-1」は2016年11月号

写真はすべて筆者

P2 下 2018 南古谷(通称)

P2 右上 2018 南古谷(通称)

P3 左中 2018 行田市 エリマキシギ

P3 左下 2017 小山市

P3 右下 2018 行田市 オジロトウネン

そろそろ孵化するころだ

平田範之 (川口市)

6月5日。鷹が卵を温めている。種類はよくわからない。下から見ると♀のしっぽが見えた。♂はカラスを警戒して時々鳴いている。

鷹のなわばりには、カラスが入って来られないようで、隣の木にキジバトが巣作りを始めている。少し離れた木にはオナガが巣作りをしている。鷹がいるとカラスが入ってくることができないことをよく知っているようだ。

時々、オスがカラスを追いかけ回している。4月末ごろから縄張りを作っていたのでそろそろ雛が孵化する頃だと思われる。雛が巣立つまで静かに見守りたい。

(編集部註:鷹はおそらくツミと思われます)

イソヒヨドリの繁殖

市原あゆみ (川口市)

アリオ川口周辺の住宅地(53395567)で昨年夏から近所で時々見かけていたイソヒヨドリが、ついに今年繁殖に成功していました。

6月7日午後7時頃、6月13日午後6時頃、6月22日午前10時頃の3回イソヒヨドリ♂が虫を啜ってはマンションの隙間に入っていくのを目撃。奥から、ヒナの鳴き声と思われる「シーシーシー」という低い声が聞こえていました。7月3日午後1時頃、イソヒヨドリ♀の姿を確認、成鳥と同じくらいの大さきの巣立ち雛1羽と一緒に飛び立つのを目撃し



ました。フワフワした羽毛が残っていたので雛だと思いました。その後、今度は♂がマンションの階段にとまっていた雛2羽を促すように突つき、近くの電柱に飛んでいきました(左下写真)。少なくとも3羽の雛がいるようです。♂は子育て中も時々、高いところで1羽囀っていました。

♂の姿は昨年夏から京浜東北線の線路沿いで何度も見かけていましたが、まさかこんな所で♀に出会えて、繁殖までしていたことにとても驚きました。場所は川口駅から400mほどの、かなり人通りのあるところですが、街灯も明るいので、夜も休まず蛾などの虫を捕まえて給餌しているようでした。

以上、喜びの報告でした。

シイノトモシビダケ

榎本秀和 (鴻巣市)

漢字で書くと「椎の灯火茸」となるか。キノコの名である。

初めてこのキノコに出会ったのは、三宅島の都立三宅高校の脇を奥へ入った林道であった。私が三宅島探鳥会のメインリーダーを務めていた頃(1993~2000年)で、確か「アカコッコ館」があったから(93年7月オープン)、たぶん94年5月のことだったと思う。

その頃の三宅島探鳥会は、現在の三宅島探鳥会とは宿も異なり、夜が更けてからの「夜探」も行っていた。三宅島のこととて、今どきめったに体験できない真の闇の中を、手にしたライトを頼りに、ねぐら入りのオオミズナギドリの声や、アオバズクの姿を求めて歩いたのだ。

ふと見ると、道端のところどころに、ほのかに光っているものがある。一瞬、獣の眼光かと思ったが、光は静止したまま点滅を繰り返している。近くに寄ってよく見ると、それらはキノコの光だった。

2000年の噴火以降、そのキノコがどうなったかはわからない。しかし、そのキノコの名が、「シイノトモシビダケ」というらしいと知ったのは、実は今年(2019年)の三宅島探鳥会でのことである。



野鳥情報

さいたま市緑区寺山 ◇4月24日、林の脇でエナガ、シジュウカラ、アオジ、ヒヨドリ、カワラヒワ。灌木に上がって「チッ」と鳴く鳥。アオジと違って双眼鏡で見るとクロジ♂1、実に久しぶり。シックな姿に感動（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区掛 ◇4月27日、水の入始めた田にムナグロ32（鈴木紀雄）。

春日部市武里中野 ◇4月28日午後3時46分、オオヨシキリ1が自宅東の安之堀川に群生するヨシの中で囀っていた。根元の方で鳴くので姿は確認できず。当地今季初認。4月29日朝、上空を北へ遠ざかるコアジサシ「キリッ キリッ・・・」の声を聞いた。当地今季初認。5月6日午前10時38分、キアシシギ3が田畔に止まっているのを見た。当地今季初認（石川敏男）。

吉川市きよみ野5丁目(53396678) ◇4月28日午後4時30分頃、田植え前、水を張られた田にムナグロ8ほどが来ていた。夏羽と夏冬中間の羽毛の状態の個体も見られた（下写真）。観察されていると感じると動きが固まるようで、5～6分で撮影をやめた（高野 智）。



越谷市千間台西第四公園 ◇4月29日午後、園内の高い広葉樹の枝に小鳥1羽がせわしく飛び回っており、何とか証拠写真を撮った。結果はコサメビタキだった（石川敏男）。

春日部市春日部八幡神社境内 ◇5月3日午前10時36分、鎮守の森の広葉樹を下から見

上げていると1羽の小鳥が横枝にとまった。すかさず双眼鏡で確かめるとキビタキ♂であった。森にはハシブトガラスが多いためか、全く鳴かない。ひっそりと食物を探していた。5月10日午前5時43分、複数のセンドタイムシクイの声を聞いた。同5時54分、エゾムシクイの聲がし、枝に止まった1羽を確認できた。サンショウクイらしき声もした（石川敏男）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇5月5日午後1時、チュウシャクシギ2（下写真）。田んぼに佇んでいたが、ゆっくりと動き出し、畔を越えて姿が見えなくなった（藤原寛治）。



蓮田市西城沼公園周辺 ◇5月10日、ムクドリ10+が1本の桜に群がり、サクランボを採食。キジバトが園内10ヶ所位で鳴いていた。他にカワラヒワ、オナガ、ヒヨドリなど。5月12日、東沼の周囲のヨシ原でオオヨシキリの声が賑やかになった。東沼にカルガモ1、眠っていた。ケヤキの樹でシジュウカラの囀りが大きくなった。5月13日、カワセミが水面に直線を書きながら飛んだ。メジロ2が樫の木の枝を移動していった。その後を数羽のシジュウカラが追った。コゲラ1は残ってコツコツやっていた。ツバメ3が戦闘機のように絡み合って飛んでいた。5月23日、西沼の辺でハシボソガラスが小魚と一緒にペリットを吐き出した。その後、小魚だけを食べてしまった。屋敷林の上をオオタカが通過。尾の先端が角であった。ハイタカかな？ 屋敷林からコジュケイの鳴き声が響いた。6月13日、近頃ムクドリの数が増えた。30羽以上いる。巣立ち雛が混じっているようだ。コジュケイの囀りを久しぶりに聞く。ヨシ原でオオヨシキリも賑やかだ。チョウゲンボウが屋敷林

の上空を飛び緊張が走った。ハクセキレイの巣立ち雛が芝生で採食（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区横根 ◇5月10日、田んぼでコチドリ1、ムナグロ5。5月15日、アマサギ1、ダイサギ数羽。ムナグロ4、コチドリ1。5月16日、ムナグロ2、イソシギ1。セッカとオオヨシキリの声、ツバメの飛翔（鈴木紀雄）。

熊谷市大麻生 ◇5月12日午後12時40分頃、野鳥の森でキビタキの鳴き声に聞き入った。他にアオゲラなど（大畑祐二）。◇5月27日、野鳥の森の中から猫のような声が聞こえてきて林縁の枝にコウライウグイスがとまる。池の近くでサンコウチョウのさえずりを聞く（千島康幸）。

草加市柿木町 (53396635) ◇5月14日午前11時頃、草加公園脇の八条用水でミゾゴイ1（下写真）。他にカワセミ、カルガモなど（高橋幸弘）。



桶川市舎人新田 ◇5月14日午後5時30分、オオヨシキリ、今季初認。囀り複数、姿1（小貫正徳）。

久喜市菖蒲町下栢間 ◇5月21日午後5時40分、イカルチドリ3、寒冷前線通過後、雨上がりの畑上を飛び回る（小貫正徳・とみ子）。

桶川市若宮 ◇5月23日午後6時15分と8時10分、自宅ベランダから見える5号棟アンテナにカッコウが来て、高らかに爽やかな声で「カッコウ、カッコウ」。今年もまたやって来てくれた。昨年はずごく早く、5月13日だった。これから毎朝やってきてほしい（立岩恒久）。

吉川市高久 ◇5月24日午後1時30分頃、調整池でコアジサシ15±。池の周りの盛土の上で8羽が抱卵。5月29日午後5時頃、同

地でヒクイナの声で30分以上楽しんだ（山部直喜）。

渡良瀬遊水地 ◇6月3日、トビ多数、ミサゴ1、ノスリ3、チョウゲンボウ1、コアジサシ1。ウグイス、オオヨシキリ、ホオジロ、コヨシキリ、オオセッカ、セッカの囀り。アオジが囀っていた。繁殖？キジが目立つ、遠くでカッコウ（鈴木紀雄）。

さいたま市大宮区大宮公園 (53397500) ◇6月6日午前10時40分頃、オオムシクイ1。日本庭園脇の道を歩いていたら、気になるさえずりが聞こえた。声の主を探すと、ムシクイの仲間が動き回りながら盛んに囀っていた。時季と鳴き声から鳥の名前が浮かんだが、念のため家に帰って鳴き声を確認した。やはりオオムシクイに間違いなかった。野鳥データベースに登録された自分のデータを調べて、26年ぶりの出会いだとわかった（森本國夫）。

渡田市黒浜沼 ◇6月8日、オオバン、カイツブリ、ヨシゴイ各1。オオヨシキリ、ウグイス、カワセミの声。ツバメ3、水面上を飛ぶ（鈴木紀雄）。

渡田市閩戸 N36.0091 E139.6287 ◇6月13日、今年もセッカ（下写真）が休耕田で子育てをはじめたようだ（関口明宏）。



北本市北本自然観察公園 ◇6月16日午前11時5分、ホトトギスの初音（小貫正徳・とみ子）。

表紙の写真

ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属カワセミ

7月21日曇り空。シャッター速度2000分の1秒、感度ISO 2000で、カワセミの飛び出し写真を撮影しました。藤原寛治(さいたま市)



行事案内



サシバ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。**体調を整えてご参加ください。**

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候や、**暑さ指数(NBGT)予報が「危険」の場合は中止します。「嚴重警戒」の場合は中止することもあります(7月号P8「探鳥会における熱中症対策ガイドライン」参照)。**

時刻表の変更にご注意の上、できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会 (要予約)

期日：9月1日(日)

詳細は、8月号をご覧ください。

長瀬町・羽を知る探鳥会

期日：9月7日(土)

集合：午前9時、秩父鉄道 長瀬駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷8:02発、寄居8:37発、または御花畑8:15発に乗車。

解散：秩父鉄道 上長瀬駅近くの、「埼玉県立自然の博物館」前。

担当：井上、近藤、菱沼(一)

見どころ：初めての羽をテーマにした観察会です。鳥の羽を探しながら、落とし主や羽の部位などを調べましょう。

持ち物：飲み物必須。防虫スプレー、長ズボン、長袖シャツがおすすめです。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月15日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから東武バス「さいたま市立病院」行き8:23発で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、畠山

見どころ：暑さ対策を万全にしてお越しください。上空にサシバを期待しながら、基本の鳥を皆様と一緒に探したいと思います。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月16日(月・祝)

日本野鳥の会埼玉では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。多くの会員の参加・ご協力をお願いします。

◆ 大久保農耕地 (さいたま市)

集合：午前9時30分、荒川総合運動公園運動場北東側駐輪場わきの広場(横堤の下)。

解散：集合場所で、正午ごろの予定。

交通：浦和駅西口②番バス乗り場から大久保浄水場行き8:33発に乗車し終点「大久保浄水場」で下車、そこから徒歩約15分。

担当：石井

その他：調査のため参加費は不要。小雨決行、大雨や悪天候の場合は中止です。なお、シギ・チドリ類が大変少ないこともあります。

長野県松本市・白樺峠平日日帰り探鳥会 (要予約)

期日：9月18日(水)

詳細は、8月号をご覧ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月21日(土) 午後3時～4時ごろ
会場：会事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月22日(日)

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:43 発、所沢 8:38 発に乗車。

解散：正午ころ、稻荷山公園。

担当：長谷部、石光、佐藤(久)、島崎、鈴木(秀)、

中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：夏鳥たちが姿を消し、冬鳥には少し早いこの時季。時々現れる旅の途中の珍客。運よく会えた時にはとても幸せ。

タカの渡り調査

毎年行う大切な定点観測です。初めての方も大歓迎。**雨天(小雨でも)中止**。調査のため参加費不要。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、各調査地点にお出かけ下さい。

◆**中間平(ちゅうげんだいら)展望台(寄居町秋山)**

日時：9月22日(日) 午前8時～正午ころまで。

交通：車で寄居町から294号線を東秩父方面に向かい、途中で右に入ります。登る途中に老人ホームあきやま苑があります。中間平緑地公園内の道路脇の展望台です。駐車場、トイレあり。

担当：千島

見どころ：昨年の22日にはサシバ15、ツミ1、ハヤブサ1を観察しました。展望台が修理され綺麗になりました。

その他：当日は、展望台の近くでツアイスのスコープや双眼鏡のお試し企画があります。

◆**天覧山展望台(飯能市)**

日時：9月23日(月・祝) 午前9時～正午ころまで。

交通：東飯能駅西口から、7:43 または 8:03 発バスで「天覧山下」下車。少し戻り、横断歩道を渡り、坂を登る。バス停から市民会館～能仁寺～天覧山登山口を経て山頂まで徒歩約30分。滑りにくい履物で参加願います。駐車場は市民会館、8:00 開場。

担当：鈴木(秀)

見どころ：タカ柱を観たいですね。去年は、

チゴハヤブサも飛びました。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月28日(土)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 9:00 発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:40 発で「松伏高校前」下車。松伏高校の向かい側が、集合場所です。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、橋口、山部

見どころ：公園と秋の田の野鳥を探します。

※松伏町中央公民館共催。中止の場合、研修室で「探鳥会コースの野鳥紹介等」を計画。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月26日(土)～27日(日)

集合：26日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。

交通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:46→長野8:38着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:46→長野8:43着)など。

解散：27日16時頃、長野駅前。「あさま626号」(16:23 発)に乗車できるように調整。

費用：12,000円の予定(1泊3食、現地バス代、旅行保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名(先着順、埼玉支部会員優先)。

申し込み：往復はがきに住所、氏名(ふりがなも)、旅行時の年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充()まで。9月1日消印から有効受付とします。

担当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)

見どころ：紅葉、秋の旅鳥たちと新そばを楽しむ。夕食後に好評だった羽の講座(7月号行事案内参照)を開催します。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



3月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 51(会員44)名 天気: 晴後曇

コジュケイ カルガモ キジバト カワウ アオサギ トビ オオタカ コゲラ アカゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (28種) (番外: ガビチョウ) 土手でモズ、ジョウビタキ、アオジ、シメなどを順調に観察。河原ではオオタカが旋回してくれた。ウグイスの囀りを聞き、綺麗なカワラヒワを見て進む。森では鳥影が無く焦ったが、トイレ休憩の場所にベニマシコが登場して盛り上がる。出現鳥は少なかったが、気持ち良い探鳥会。(新井 巖)

3月10日(日) 熊谷市 大麻生 Beginner

参加: 18(会員4)名 天気: 晴

キジバト トビ オオタカ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (19種) (番外: ドバト) ウグイスのさえずりに春の気配を感じる穏やかな日和。観察種数は少なめだが、じっくり見てもらった。(石塚敬二郎)

3月16日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 22(会員21)名 天気: 曇一時雪

キジ コガモ キジバト カワウ アオサギ トビ オオタカ コゲラ アカゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ キバシリ ミソサザイ カワガラス ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ (34種) 薄日の差す絶好の鳥見日和。途中、少し雪がちらつきはしたが、予定のコースを無事踏破。大谷川

沿いの林にアカゲラみ、神橋下流ではカワガラスの子育て風景、瀧尾神社下の沢ではミソサザイが足元から飛び出し、日光ならではの探鳥となった。アフターではアオゲラみも。(浅見 徹)

3月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

相原修一、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、三ツ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄

3月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 35(会員23)名 天気: 晴

マガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ コサギ クイナ オオバン ハイタカ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (34種) (番外: ドバト) 三室探鳥会は様々なコースがとれる。今回も新コースを開拓してみた。結果は上々。30種類を超え、クイナや猛禽各種と満足できる内容だった。歴史ある三室地区は、珍鳥こそあまり出現しないが、やはり楽しめる探鳥地だ。(青木正俊)

3月20日(水) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 53(会員46)名 天気: 晴

キジ オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン コチドリ トビ ハイタカ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (39種) (番外: ドバト) ヨシ原にはオオジュリンがあちこちに現れる。沼の島には婚姻色のアオサギが巣づくりし、砂利場ではコチドリが佇み、上空ではヒバリの囀りに春を感じる。ツグミやシメは、帰る準備なのか食事に夢中。まだ残っているベニマシコを観察して終わった。(相原修一)

3月21日(木祝) 松伏町 松伏記念公園

参加: 29(会員21)名 天気: 曇後小雨後晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ オオバン タシギ クサシギ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ シメ (28種) (番外: ドバト) そばで少年野球、おまけに雨が降ってきて野鳥の姿は今一つ。そんな中、何度も出てきたアトリの群れと動かずにいたシメに感謝。練習不足のホーホケキョにほっとし、雨の上がった雲の切れ間にヒバリ確認。最後はTiffanyブルーの春の空に今季初のツバメが飛んだ。入会希望者2人、万歳。(山部直喜)

3月22~23日(金~土) 東京都 八丈島航路 Young

参加: 23(会員18)名 天気: 曇

キジバト コアホウドリ クロアシアホウドリ アホウドリ オオミズナギドリ オーストンウミツバメ ヒメウ ウミウ アオサギ ダイサギ ウミネコ ハシブトガラス ツバメ ヒヨドリ ウグイス イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ (18種) 初の「航路ヤン探」。朝6時頃から観察開始。御蔵島周辺ではオオミズナギドリの群れが海上に広がる。八丈島までにアホウドリ2羽、クロアシアホウドリ2羽に会えた。復路の八丈島から三宅島までの海域ではアホウドリ2羽、クロアシアホウドリ9羽、また少し波が荒れてきたことからオーストンウミツバメも見られた。三宅島を出て、熱いゾーンに突入。15時付近から10分おきくらいにアホウドリ類が出現、16時頃には同時に20羽近くのアホウドリが乱舞! その後はコアホウドリも近くを飛んでくれてアホウドリ類3種コンプリート。参加者大満足。(廣田純平)

3月23日(土) 秩父市 秩父ミュージアムパーク

参加: 42(会員36)名 天気: 曇

カルガモ キジバト カワウ ダイサギ コゲラ アオゲラ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ マヒワ ウソ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (29種) (番外: ガビチョウ)

時々みぞれが降り、冷え込んだが、鳥の出はかなり良かった。マヒワの群れが何回となく見られ、特に武甲広場での昼食時にはイカルとともに参加者を楽しませてくれた。アオゲラも全員がじっくり見ることができた。(長野誠治)

3月24日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 38(会員36)名 天気: 晴

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ タゲリ コチドリ タシギ アオアシシギ エリマキシギ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (50種) (番外: ガビチョウ) 強風の中のスタート。干し上げで湿地状となった谷中湖で、主役はシギ・チドリ。まずはコチドリの群れ、続いてタゲリも10羽程度。やや大型のシギが5羽。エリマキシギだった。さらにタシギやアオアシシギも記録。いつもと違う3月の探鳥会となった。(佐野和宏)

3月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 42(会員31)名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ コサギ オオバン ヒメアマツバメ イカルチドリ コチドリ トビ オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (35種) (番外: ドバト) 河原を歩き始めるころには暖かくなってきた。コチドリとツバメがやって来てカタクリも満開。3月の入間川探鳥会らしい景色だ。前回空振りだったイソヒヨドリも全員でよく見られた。(長谷部謙二)

4月7日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 35(会員29)名 天気: 晴

キジ トビ オオタカ コゲラ モズ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカ
ラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムク
ドリ ツグミ スズメ イカル ホオジロ アオ
ジ (19種) (番外: ガビチョウ) 桜満開の中スタ
ート。鳥は少なかったが、林床のイカル2羽を観
察し、オオタカが上空を旋回してくれた。鳥以外
にも、アオダイショウ、サンショウウオの卵、冬
眠中なのか丸まったヤマネが観られ十分楽しむ事
が出来た。(井上幹男)

4月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 47(会員40)名 天気: 晴

コジュケイ キジ カルガモ コガモ カイツブ
リ キジバト カワウ アオサギ クイナ バン
カワセミ コゲラ モズ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ
ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナ
ガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ
スズメ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホ
オジロ アオジ (33種) (番外: ドバト、ガビチ
ョウ) エドヒガンザクラは散った後で、桜堤のソ
メイヨシノや途中のオオシマザクラやヤマザクラ、
東光寺のカバザクラは満開。鳥も良かった。ふれ
あい橋でアオジ、ツグミ。木道で採餌中のコゲラ。
囀るエナガ、シジュウカラ。高台では園路に降り
て採餌中のシメをじっくり観察。児童公園近くで
キジを観察。各所でキジ、コジュケイ、ガビチ
ョウ、コガモ、クイナなどの声。最後はヤマガラ
を見た後、残っていたジョウビタキの♀。いつも
より長距離を歩きお疲れさま。(吉原俊雄)

4月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 45(会員32)名 天気: 晴

コジュケイ キジ マガモ カルガモ コガモ
キジバト カワウ アオサギ オオバン カワセ
ミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ
ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ
ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シ
メ ホオジロ アオジ オオジュリン (30種) (番
外: ドバト) 久々のお花見探鳥会になった。ど
こへ行っても桜は満開。あちらこちらで花の香
りが漂い、聞こえるキジの鳴き声やヒバリの囀
り。出会えた鳥の種類は、リストより少ない印象だ

たが、参加者の皆さんは、春の見沼を満喫できた
のでは。お疲れ様でした。(伊藤芳晴)

4月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 42(会員41)名 天気: 曇

コジュケイ キジ キジバト ヒメアマツバメ
トビ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス
ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバ
リ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス
エナガ メジロ ムクドリ トラツグミ シロハ
ラ ツグミ スズメ カワラヒワ シメ ホオジ
ロ アオジ クロジ (29種) (番外: ガビチョウ)
土手の桜はまだ咲いていて北に移動中のヒヨドリ
の群れがあちこちにいた。ゴルフ場の芝にツグミ、
シメがいて、アオジ♂が枝にとまり、ホオジロ、
ウグイス、メジロ、シジュウカラがさえずり、ツ
バメが飛んだ。河原の端の木に北に移動中のカケ
ス4羽がとまっていた。モズ♀が近くにとまっ
ている♂に餌をねだって翼をバタバタしていた。野
鳥の森の中でトラツグミが鳴いた。ヒバリが空高
く上がりさえずっていた。イワツバメ、ヒメアマ
ツバメが飛んだ。池ではクロジ、シロハラ、ヤマ
ガラが出た。(千島康幸)

4月20日(土) さいたま市 秋ヶ瀬公園 Young

参加: 57(会員30)名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ
キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コチド
リ タシギ クサシギ イソシギ トビ オオタ
カ ノスリ カワセミ コゲラ モズ オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイ
ス エナガ センダイムシクイ メジロ セッカ
ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ スズメ
ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ ア
オジ (42種) (番外: ドバト、ガビチョウ) ま
ずは鴨川沿いを歩いた。まだ残っていたマガモやコ
ガモ、少し遠いけれどもクサシギ、タシギ、コチ
ドリ、カワセミなど好調な出だだった。水田地
帯では水を張っていなかったためか、少し寂しい
感じだった。そんな中、キジの雄とオオタカが見
やすいところに留まってくれて人気を集めた。「い
た」情報は聞けても、なかなか夏鳥を目にするこ
とはできなかった。終着点付近で愛想の良いシロ
ハラに慰められた。(島崎 敦)



●9月になっても猛暑にご注意！

8月中に「天気予報 9月 埼玉」で検索したら、9月はすべての日の最高気温が30℃以上であり、最高38.1℃になる日もあると報じているサイトがありました。

9月になっても油断せず、暑さ指数で「危険」の表示が出た日は、外出を控えてください。決して無理をせず、自分の身を守ってください。

行事案内欄にある通り、暑さ指数予報が「危険」の場合、探鳥会を中止する方針は継続します。

●「見沼・さぎ山交流ひろば」サテライト企画に参加

9月16日(月祝)午前10時～午後5時、浦和美園駅コンコースで、「見沼田んぼのなかまたち」として、見沼田んぼに生息する野鳥を消しゴムハンコ作品で紹介したり、見沼田んぼ地域で開催する探鳥会のスケジュール表を配布するなどの普及活動を、小林みどり副代表が担当して実施します。

●2019年度県カワウ対策協議会に出席

7月18日(木)午後1時55分～3時20分、県教育会館(さいたま市)で開催された協議会に、当会から小荷田行男幹事が出席し、県みどり自然課、森林公園、県水産研究所から、県内のカワウ生息状況に関する報告などがあつたと、同幹事から当会役員会に報告されました。

●ごめんなさいコーナー

前号9ページ「2019年9月～12月の行

事予定」表中の「*」「**」と、表下の「*」「**」についての説明文を削除し、12月15日(日)狭山市入間川(ヤング)を追加します。

●会員数は

8月1日現在1,584人です。

活動と予定

●7月の活動

7月13日(土)8月号校正(海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

7月20日(土) pdf化した8月号を本部総務室に送信して全国配布を依頼した(海老原美夫)。

7月21日(日)役員会(司会：浅見徹、各部・委員会等の報告、行事予定の一部変更など)。

7月22日(月)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』8月号を郵便局から発送した(海老原美夫、山部直喜)。

●9月の予定

9月7日(土) 編集部会(午後4時から)。

9月14日(土) 10月号校正(午後4時から)。

9月15日(日) 役員会(午後4時から)。

9月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

今年は、陽光きらめく中、タマムシの飛び立つ瞬間を鮮明に捉えたいと密かに計画していたのですが、昨年とうって変わり連日の梅雨空。今年は諦めて来年に期待です。

梅雨が明けると晴れの日が続くようですから、ようやくこれからトンボさんと遊んでもらえそうです。(藤原)

しらこぼと 2019年9月号(第426号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 山部直喜 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社